２０１７年度

地域の子ども研究会

～地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す～

目次

研究活動の報告

○学童期におけるあそびの現状と課題

○幼児保育から学校教育への接続期の課題・不安を探る

研修活動の報告

○幼児保育から学校教育への接続期の課題・不安を探る

情報交換の報告

子どもたちとの活動の報告

○第３２回ともだちドッチボール大会

○ともだちフェスティバル

○リバートレッキング

○合同遠足

○子ども将棋大会・子ども卓球大会

１年間の振り返り

○指導員一人ひとりの振り返り

「学童期の遊び」研究報告

1．ねらいと背景

子どもたちが成長していく上で、遊びは欠かせない。ゲーム機器やスマホの浸透により、子どもの身の回りの環境が変化している。そのような時代の変化の中で、子どもたちの遊びの現状はどうなっているだろうか？子どもたちの遊びの現状はどうなっているだろうか？育った時代が違う指導員がいる中で、遊びに対して様々な視点があり、「学童期の遊び」を研究テーマとした。

2．施設内の遊びと施設以外の遊びについて調べる

学童期の遊びの研究をするにあたって、まずは施設内での遊び、施設外＝家庭での遊び、地域での遊びを調べてみた。その後、子どもにテレビゲームについて聞き取りを行う。

3．結果

〈施設内での遊び〉

紙飛行機、ドッジビー、サッカー、オセロ、将棋、工作、折り紙、レゴブロック、剣玉、風船バレー、スコットヤード、ボードゲーム、お化け屋敷作り（体育館）クッキングなど

＊伝統的な遊び、友だちと一緒にする遊び、クッキングなどの遊びが幅広い。

〈施設外（家庭で）の遊び〉

公園、家でゲーム、携帯電話のゲーム、ユーチューブ

＊伝統的な遊びがある一方で、テレビゲームなどの現代的な遊びが見られる。

4．子どもに遊びやテレビゲームについての聞き取り調査を行う。

〈子どもたちへの聞き取り項目〉

①自分の携帯電話を持っているのか？
②休みの日の過ごし方
③どこで遊んでいるのか？（場所）
④ゲームで遊んでいる子には、どんな種類のゲームか？
⑤休みの日は何時間ぐらいゲームをしているのか？

〈聞き取り結果〉

①保護者の携帯電話を使用している子が多い。
②ゲーム、ユーチューブ、家族とお出かけ、友だち、習い事。
③公園、近くのスーパー、友達の家。
④シューティング系、アクション系、ロールプレイング系など
⑤2時間～3時間程度（一日中ゲームをしているという子もいた。）

〈結果を踏まえて討論〉
・運動能力の低下が気になる。
・健康面の影響。（目、脳への刺激）
・保護者の忙しさで子どもの相手が出来ない。
・少子化の問題もある。（一人っ子が増えていて遊びの手段になっている）
→テレビゲームのメリット、デメリットを考える。世代、立場の方からの意見が聞く。

表1．テレビゲームのメリットとデメリット

メリット	デメリット
・年代に関係なく楽しめる ・クリアした時の達成感がある ・ゲームというツールでコミュニケーションがとれる ・危険性がない ・留守番が出来る ・相手が見えないからこそ本音が言える ・一人でも出来る ・知識を得る事もある	・中毒性があり、長時間やってしまう ・対面してのコミュニケーションがとりにくい ・子どもに与え（させておけばいい）安易な材料になってしまう可能性がある ・視力の低下 ・実体験の乏しさに繋がる ・人との関わりが少なくなる ・現実の世界と違いすぎる

5．施設外（家庭で）の遊びまとめ

テレビゲームであるが、学童の施設外での子どもたちの遊びとして、スマホなどの普及などによって、さらに身近になっている。メリットとしては、主に友だち同士や親子の会話促進などにもつながるコミュニケーションツールとしての利用がある。一方で健康被害（視力や運動能力の低下など）の恐れがあり生活習慣の乱れなどが発生する事も、デメリットとして改めて気付く事が出来た。大人（保護者を含む）がメリット、デメリットを知った上で情報のリテラシーを持ち、子どもの主体性を大切にしつつ、子どもに提供することが必要だと感じた。

6．　施設内の遊びの検討

〈施設内での遊びの課題などを話し合う〉　施設名：四貫島有隣館

① テーマ「ドッジボール、将棋などの遊びの勝敗のこだわり」

②子どもの様子・出来事

・遊びの勘はよく、将棋やボール投げは強い方。自分ができるという自信に満ちている。
・友だちと遊んでいるときに、自分の思い通りにいかないと泣く。
・家族で遊ぶ時は勝たせてもらっている事が多い様子。

②検討内容

（1）勝敗のつかない遊びを提案してみて様子を見る。
（2）絶対的な実力の人と対戦させ、負ける事もあることを分かってもらい、同時にリスペクトする心を育てる。
（3）保育園での様子はどうだった？
（4）本人が求めている事を知るべき。

③検討を踏まえた上で実践した結果

・勝ち負けのない折り紙、パズル、お手玉などを提供してみたが、上手に折れた、早く完成できたなど、何かにつけて勝敗をつけたがる事は変わらない。

・上の学年の子や職員に対しては素直に「すごい」と口に出し、敵わない相手もいるということは分かっている。言いやすい相手を選んでいる様子。

・保育園の時は特にトラブルなどはなかったようだが、特定の子に対してのライバル心を常に持っており、何が何でも負けたくないという気持ちは強かったようで、それは今でも変わっていない。

④まとめ

・最近では着替えや宿題でも勝ちたい。指導員の「早く終わらせなよ」という声掛けも原因であるかもしれない。出る言葉も増えて気持ちを表現できるようになった。2 年生になって下に 1 年生もおり、負けたくない範囲が広がった。と考えられる。自分の気持ちを押し殺さず素直にアピールできている事は良くもあり悪くもある。みんなで遊んでいる事を考えられるようになってもらいたい。

・「負けたくない」という気持ちは誰にもあることなので、その気持ちを失ってほしくはないが、勝ち負けにこだわらなくてもいい場面もあるし、そうした遊びをもっと楽しんでもらいたいと思う。

⑤表 2．各施設での施設内での遊びの検討（最後に添付）

8．施設内の遊びまとめ

・施設内では、支援員が伝統遊び、外遊び、室内遊びなど多種多様な遊びの提供をしている。大人がいることで大人と遊ぶ機会が多いことや、大人のサポートがあり遊びが広がる一方、大人の考えで制限されることがある。大人の思いだけでなく、子どもの主体性を大切にしながら遊びが発展できるようにしていきたい。

9．全体のまとめ

少子化などで一緒に遊ぶ子どもが少ない、遊び場の制限や減少など地域が抱える問題、共働き世代の増加で余裕のない大人の問題など、現代社会はテレビゲームを子どもたちからなくすことの出来ないものになっている。共働きで忙しい家庭にとっては、子ども一人で家に留守番しながら遊びことのできるものであり、保護者にとっての安心に繋がる遊びになっている。

このテレビゲームに対して、私たち支援員（大人）は全てにおいてテレビゲームを否定してしまうのではなく、時代性、地域性を理解しつつ、テレビゲームと共生していくものであると理解すべきである。

施設内での遊びは、色々な遊びを経験したり、子ども同士の関わり合いの中で、子どもの発想や主体性を発揮していくことが、テレビゲームの画面上だけではなく、人と人との繋がりも楽しいものであると子どもたちに伝えられると考える。学童に来館する子どもたちにとって、遊びの充実が子どもにとって大切なものを育むことに繋がることに、今回の研究の中で学び気付くことが出来た。

【研究活動メンバー】

愛染橋児童館学童クラブ 岡原武、長居子どもの家 川畑亮輔、平和の子子どもの家 谷川勝敏、
四貫島友隣館子どもの家 荻野遥馬、アフタースクール KIDS かわぐち根本栄輝、
都島児童館 米谷柾哉、今川学園子どもの家 浅井あすか

表2. 各施設での「施設内の遊び」の検討

施設名	遊びの課題・テーマ	学び・気付き
愛染橋児童館学童クラブ	ねらい：新しい遊びへの挑戦、人間関係を広げる。 「野球に取り組む」 ・ルールを理解が難しい。 ・道具の扱いが難しい。	・手打ち野球をしたり、バットを使っての野球を2回、みんなで公園で取り組んでみた。 ・ルールは一回一回丁寧に教えることで、少しずつわかってきたように思う。 ・時間がかかったりするところで、興味が薄い子どもは集中力が散漫になる姿が見られた。 ・多くの人数で野球をやる姿は見られない。2年生で人間関係を広げて欲しい野球が好きな子どもが、1年生で野球に興味を持った子どもに教えるなど、新しい関係が見られた。
都島児童館	ねらい：あそびの連続性を大切にする 「マイスペース作りによる子どもの安らげる場所の確保」 ・片付けが難しい ・子どもたちの間で場所の所有権などが生まれる ・子どもたちがこそっり持ってきたものの把握が難しい	・子どもたちが施設内に自身のスペース（秘密基地など）を作ることに対して職員は片づけを強要しないようにしている。 ・以前は、ついつい一度片付けさせてリセットしてしまいがちだったが、子どもたちが学校から帰り、そのスペースで宿題、おやつ、活動に取り組んでいくことで様々なものが生み出されていくことに気付いた。 ・そのスペースを良くしようと、整理整頓したり、棚を工作したり、装飾を工作する子もいれば、その場所で過ごすことでより友達関係を深める姿も見られた。 ・課題はあるが、子どもたちのあそびの連続性、主体性の尊重のためにも大事にしていきたい子どもの活動である。
平和の子子どもの家	ねらい：行事の刺激を日常の遊びに還元する。 「将棋の楽しみ方の幅を広げる」 ・単なる<遊び>のレベルの子がほとんど。 ・相手がいないと出来ないゲーム。	・将棋大会で1年生が銀リーグ準優勝した事が刺激となり、以来、将棋ブームとなった。 ・支援員が「囲いのいろいろ」という資料を配ると、実戦でトライする姿が少しずつ見られるようになってきた。本格的な取り組みには、ちょっぴり本格的な指導が必要だと改めて感じた。 ・一人の子に簡単な詰将棋を出したところ、周りに数名の子どもたちが集まってきた。みんなで真剣に考える姿が印象的だった。その後、「詰将棋だして！」と支援員に声をかけては一人で熱中する子もちらほら。
長居子どもの家	・ねらい：外遊びのできない日の発散。他の学年との関係づくり。 ・課題：低学年だけではルールが統一されない。	・室内での運動遊びとしてドッジビー（フリスビー版ドッジ）を行う。高学年が居る時は、うまくルールの中で遊ぶことが出来ていた。しかし高学年が抜けると勝手なルールを作りだし、遊びの形が変わってくる。 ・高学年と低学年の関係が繋がっていたり、友だち同士に新しい発見、繋がりが見られた。 ・2，3年だけになっても、下の学年と一緒にうまく遊べればと思う。
四貫島友隣館子どもの家	ねらい：集団で遊ぶためのルールを知る。 「レゴの遊び方」 ・部屋中レゴをまき散らし踏んでけがをする子もいた。 ・部品の独占でけんかになる。	・レゴで遊ぶ範囲をテープで見えるように示した。 ・遊んでいない子からも「出てるよ」と声がかけやすくなり、本人たちも範囲内でおさめる意識がついた。 ・重宝される部品を最初に掻き集めている子もほかの子が「貸して」と言えば素直に手放すことができてきた。無理やり取るのではなく声をかければいいのだと気付く子が増えた。
今川学園子どもの家	ねらい：伝承遊びに興味をもつ 「将棋の遊び方」 ・対戦に負けそうになると駒をぐちゃぐちゃにしてしまう。 ・友達が大戦中に「やじ」を飛ばして邪魔をする。	・職員が対戦に加わる事でゲームの対戦がスムーズに行えた。 ・作法として対戦中に「やじ」や教えたりしないとルールを子どもたちと決め行うようにした。 ・現在は将棋のルールを理解している子も増え、子ども同士で対戦し勝ち負けを認め楽しめる様になってきている。

幼児保育から学校教育への接続期の課題・不安を探る

～幼児保育・学校教育・学童保育へ意識の共有、連携を目指して～

研究活動のねらい

2016度より、“小1プロブレム”について焦点を当て研究を行う。

テーマ選定に至った背景は、大地協加盟の学童クラブ・子どもの家は保育園が併設している施設が多く、同法人・施設内に子どもたちの乳幼児期を知る職員がいる事で、学童期に何か課題が生じた際に生育歴を遡って振り返る事が出来る。この乳幼児期から学童期へ共通の連続した保育・支援は学童単体の民営学童やいきいき事業では出来ない支援方法であり、他事業との差別化を図る事が出来ると考える。

しかし子ども達が小学校へ進学した事で、子ども達の生活環境は確実に変化し、乳幼児保育から学童へという単なる積み重ねではなく、子ども達の学校生活も踏まえた24時間を考え、支援していく事が必要である。乳幼児保育をより理解し、今までの子ども達の積み重ねを学び、接続時期の子ども達にどういった生活環境の変化や心の変化が生じるのかを知った上で日々の保育を行う事が、子どもたちの接続時期に伴う子ども・保護者の不安の軽減に繋がるのではないかと考え、本研究に至る。

方法

【2016年度】の就学前アンケート調査（年長児の保護者・保育士年長児担任対象）結果を踏まえ

1、　小学校教諭・2016年度年長児担任3者での意見交換実施
2、　研修会の実施【2017年6月23日】
3、　児童部会第1分科会にて報告・意見交換
4、　就学後アンケート調査（小学校1年生児の保護者対象）

第1章小学校教諭・2016年度年長児担任3者での意見交換実施

2017年度5月、就学前アンケート集計・年長児担任保育士アンケート集計を基に、小学校教諭2名・2016年度年長児担任保育士2名・地域の子ども研

究会スタッフ６名とで意見交換会を行う。
　アンケート結果より小学校教諭からは
・友だち関係に不安があるっていうのは１年生を見てても思います。
・就学前に読み書き出来てほしいと思う保護者が多いですね。
・生活習慣は身につけておいて欲しい。
等の意見が聞かれた。それに対し保育士からは、
・すぐ手が出てしまう子がいて怪我をさせないか心配。
・人見知りで、友だち関係に不安。
・集団で人の話を聞くのが苦手ですが授業の理解が出来るか・・・
等、関わる中での具体的な不安や課題・悩みが出され、学童指導員も交えて意見交換が行われた。
　具体的な話をすればするほど、「小学校ではそういった声掛けをしてくれるのですね」「保育園ではそんな子どもたちの姿があるんですね」とお互いに得るものがあり、他の保育士にも知ってもらいたいと研修会実施に至る。

第２章研修会の実施

　２０１７年６月２３日育徳園幸分ホールにて小学校教諭２名を招き、参加者28名・スタッフ13名・計41名にて研修会を実施した。
　本研修会は２部構成とし、１部は幼児（特に年長児）の遊びを中心とした情報交換会を実施。２部に小学校教諭の方から１年生の学校生活の様子や保護者との連携方法等実際のエピソードも踏まえてお話頂き、保育園での生活が小学校生活でどのように活かされているか、子ども達の力となっているかを実感できるような内容であった。
　研修会後アンケートでは、
・要録のことを知れた。現実的なことが聞けてよかった
・小学校での子どもや保護者の様子を知ることができた
・話を聞けたことで自分の気持ちの準備ができた
・就学前にどんなことをしていたら良いのか等聞けてよかった
・就学にむけて保護者とどういった話をしていけばいいのか少しわかった
・保育園・小学校に求めることの違いが多いことがわかった
・現場がお互いに子どもたちに寄り添い、最善の利益を守っていきたい。
等の意見をよせて頂いた。
※本報告集 研修報告参照

第３章 児童部会第１分科会にて報告・意見交換

児童部会第１分科会報告では他府県の方との意見交換の為“アンケート結果から背景や課題を探る”といったものではなく、研究活動チーム内で以前より「保護者の不安は小学校生活が良く知らないという漠然としたものから来ているのではないか」という仮説を立て、“就学に「不安がない」の内「兄弟がいるから」と回答した保護者の方”と総数との比較を焦点に

『経験上就学に向けて必要だと思われていることがあるのではないかを読み解き、就学前に不安を抱える保護者へのアプローチを探る』との発題と加えて

『保育士アンケート結果より、保育士と保護者の思いの比較から不安のある保護者へどう寄り添うか考える』

『不安や孤独感をもつ保護者への支援～不安や孤独感をどう見つけ、支援につなげていくか～』という内容に様々な視点での討議を行った。

※第１６回児童部会報告集参照

第４章 就学後アンケート調査（小学校１年生児の保護者対象）

２０１８年2月、就学前に不安に思っていたことは解消されたのか、就学前から就学後の保護者の不安の変化を調査すべく、地域の子ども研究会参加施設内９施設の学童在籍児１年生の保護者及び（昨年の就学前アンケートに回答いただいた）卒園児１年生を対象にアンケート調査を実施する。

今後その課題・不安が解消できるのか、どういった背景や支援方法があるのか、同じようなケースにならない為就学前・就学後に行えることは何かを討議し、施設へ還す事を目的とする。

９ 施設１２８名の保護者の方より就学前～就学後の変化について、就学前に感じていた不安の変化や就学後の様子などの意見を伺うことができた。

小学校1年生のお子様に関するアンケート集計

9施設　128名

1. 入学に当たって不安な点はありましたか？

ある	103
ない	25

ある:不安な点	学習面	友達関係	食事面	教員との関	生活面	放課後の過	地域の環境	登下校	保育園・幼	保護者向け	子どもの様	その他
	55	70	11	18	15	38	3	50	35	9	8	2

解消した	80
解消しない	23

解消した理由	学校との連	困ったとき	何とかなる	その他
	18	17	48	6

2. 幼、保育園に通っていた頃と比べていかがですか？

身に付けてほしいこと	読み書きが	人と仲良く	礼儀・行儀	挨拶ができ	排泄・着替	人の話を聞	思いやりの	自分の思い	その他
	16	69	68	36	5	46	61	75	0

就学前より変化はあった	58
就学前より変化はなかった	64

3. 誇り面白いと思ったことはありましたか？

ある	105
ない	20

ある	運動系の活	学習系の活	地域を一人	家庭での学	生活習慣に	その他
	40	33	0	25	54	5

ない	運動系の活	学習系の活	地域を一人	家庭での学	生活習慣に	その他	特に何もしていない
	1	3	0	2	0	0	14

4. 子育て中に悩みや不安を相談する相手はいますか？

ある	46
ない	82

5. 子育て中に相談できる人はいますか？

いる	121
いない	0

相談相手は誰ですか？	夫・妻	祖父母	友人	兄弟	学校の先生	学童指導員	専門機関	その他
	98	77	91	28	39	32	5	3

6. 放課後の過ごし方

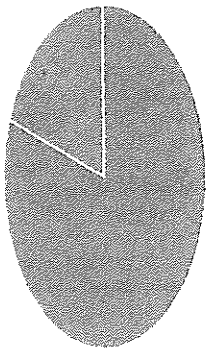
居場所	家	いきいき	学童クラブ	その他
	21	34	89	5

7. 保護者の仕事の変化

変わらない	99
変わった	29

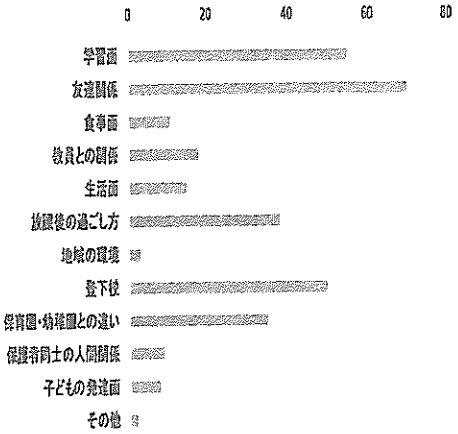
仕事減った	9
仕事増えた	19

1. 就学にあたって不安な点はありましたか？

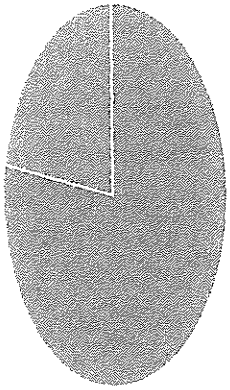


ある　ない

●【ある】と答えた方：就学にあたって不安だったのはどのような点でしたか？

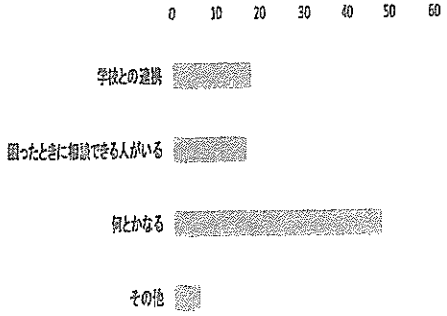


●就学後、不安は解消されましたか？

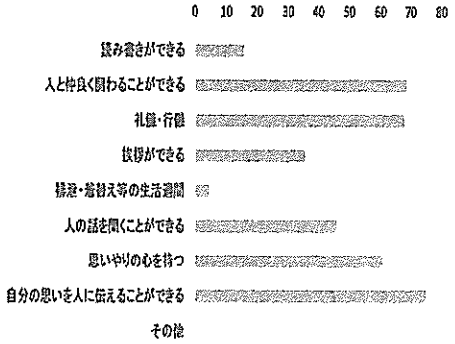


解消した　解消しない

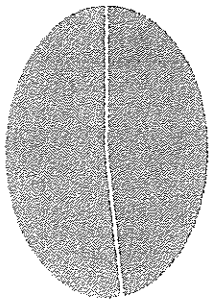
●【はい】と答えた方：不安が解消したきっかけはありますか？



2. 現在、お子様に身に付けてほしいことはどんなことですか？

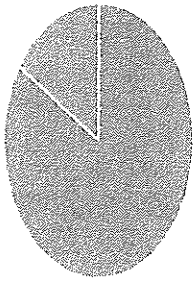


●就学前とお子様に身に付けてほしいことに変化はありましたか？



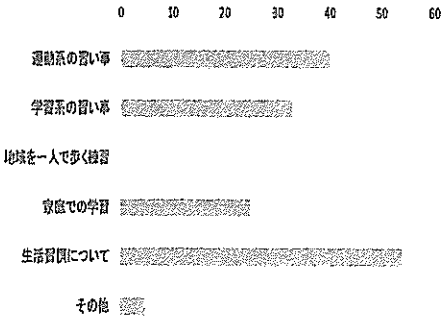
・就学前より変化はあった　・就学前より変化はなかった

3. 就学前に行っていて良かったと思うものはありますか？

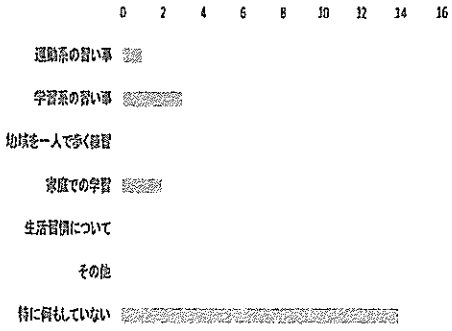


・ある　・ない

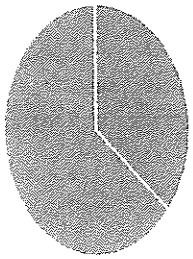
●【ある】と答えた方：それはどのようなことですか？



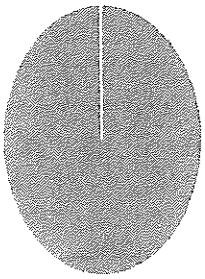
●【ない】と答えた方：それはどのようなことですか？

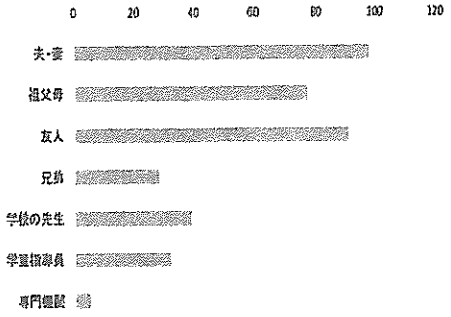


4. 子育てについて悩んでいることはありますか？

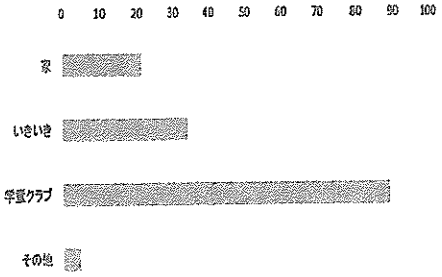


5. 子育てについて相談できる人はいますか？

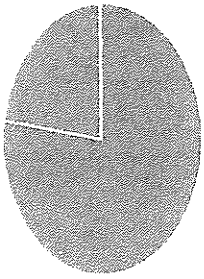


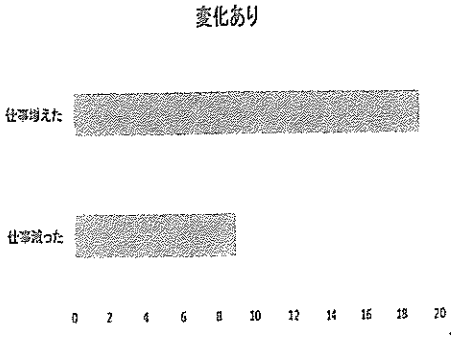


6. 放課後の過ごし方



7. 保護者の仕事の変化





今回実施したアンケートより、就学にあたって不安を感じていた人(Q1)の中で現在も不安が解消されていない家庭に着目し、就学後不安が解消されない理由について記述していただいた内容をまとめる。

- どんどん学習がついていけなくなる。
- 共働きのため子どもの勉強をあまり見てあげられないため、分からないまま１年が過ぎている気がします。
- まだまだ友だちとトラブルあり、その都度話をしてもらっていますが、まだまだ言い続けないといけないと思っています。
- 友達関係があまりわからない。休み時間一人で遊んでいると聞いたりする。
- 地域の治安、環境に対する不安が大きい。
- 毎日のことなので、不安は解消されません。

アンケート調査より、Ｑ１の“就学にあたって不安な点はありましたか？”の問いに対して“ある”が１０３名、“ない”が２５名だった。“ある”を選んだ人のうち、就学後不安が解消したと答えた人が８０名、解消していない人が２３名だった。

解消した人の中で一番多かった意見が“なんとかなった”、これは就学前に就学後のイメージが持てず漠然とした不安を持っていたのが、就学後思っていたより気にならなかった、もしくは困った時にすぐ相談し解決する事ができたのかと推測する事が出来る。

そこで気になったのが、解消していない２３名の保護者の意見だった。“字が覚えられない”“学習がついていけなくなっている”など学習面での不安や、“友達関係が分からない”など人間関係の不安などが主に挙げられていた。

Ｑ５の“子育てについて相談できる人はいますか？”の問いについて、今回のアンケートに答えていただいた方は全員“いる”との回答だった。しかし、前回実施した就学前アンケート調査では相談出来る人が“いない”に回答している人もいた。今回アンケート調査ができた人は現在も学童クラブに所属している、もしくは保育園とつながりのある人が占めており、子育てについて相談できる人がいない人は私たちが現在関わる事が難しい手の届かないところにいるのではないかと考えられる。また、“子育てについて相談できる人がいる”と回答した人の中で“相談相手は誰ですか？”の問いについて、学校の先生と回答した人が１１４名中３６名と少なかった。これは学校での悩みは言えても、日常の悩みを気軽に相談するのは難しいのだと考えられた。

考察

アンケート調査を実施した結果、大半の方が就学前に感じていた不安が就学後には解消されたと回答している。この結果より、就学前に保護者が感じている不安や悩みに気付き、寄り添い、一緒に考える事で（解消とまではいかなくても）不安の軽減は出来るのではないかと考えられる。また、就学から現在もなお不安が解消していない人へのこれからの対応について考えていく必要性を感じる。加えて不安を持ち続けてしまう保護者の特徴や家庭環境・背景などが把握できれば、今後該当ケースの幼児期に出来るアプローチや小学校との連携方法など対象児の将来を見据えた支援方法が見いだせるのではないかと考える。

不安を持つ保護者が就学後も保育園や保育士とのつながりを感じ、また保育園や保育士さらに学童の見守る姿勢があり、そのことを伝えていくことで、気軽に相談できる居場所となりうるのではないか。そういった保護者の駆け込み寺のような居場所をどう作っていくか、今後考えていきたい。

【研究活動スタッフ】

阿さひ保育園つくし会	吉野　裕志
育徳園子どもの家	隈元　まひる
今池こどもの家	多賀井　潤一郎
望之門学童クラブ	大西　奈々子
やまと保育園子どもの家	山口　理沙
長居子どもの家	米田　江里

地域の子ども研究会・地域の子育て研究会合同研修会

文責：育徳園子どもの家　隈元まひる

テーマ　：幼児保育から学校教育への接続期の課題・不安を探る
　　～アンケート調査結果を踏まえて～
日　時　：6月23日（金）18:30～20:30　会場：育徳園幸分ホール
参加人数：41名

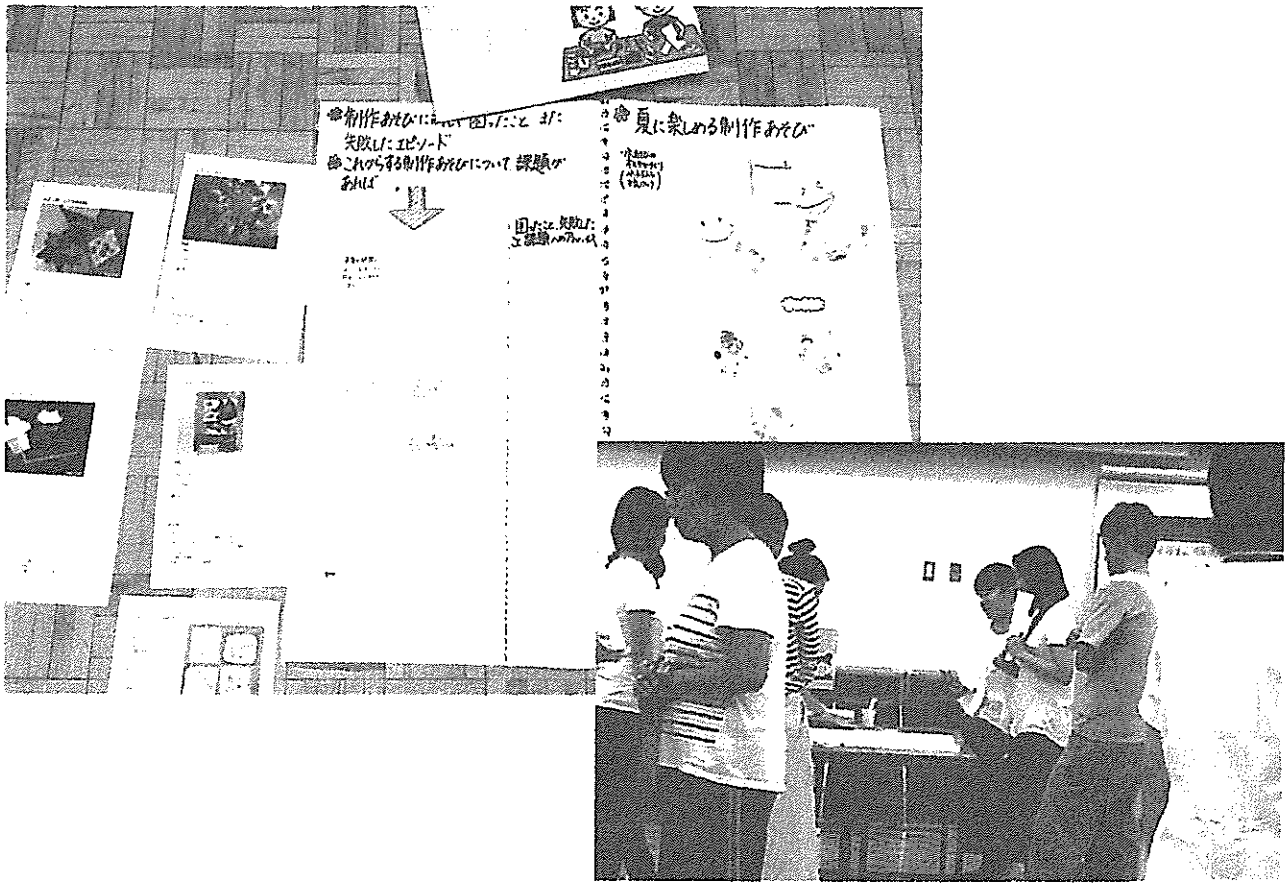
研修企画のねらい：

就学前のアンケートを元に保護者の不安に寄り添い、接続期に子どもたち・保護者が安心して過ごす事が出来るよう、地域福祉施設・職員として何が出来るのかを、小学校教諭の方から小学1年生の就学直後の様子や、教諭から見た子ども達・保護者の姿を聞き、個々の保育の振り返りの材料となればと思い企画。

尚、第1部では保育士集客を目的として、4・5歳児の遊びをテーマとして企画。（地域の子育て支援研究会と合同企画）

第1部：4・5歳児の遊びについて

主に情報交換を元としたグループディスカッションを「室内あそび」「屋外あそび」「制作あそび」にわかれて行う。保育士の遊びについての日々の悩みや遊びの質・幅を広げたいという思いと、個々の遊びの得意分野を生かしながら情報交換がされ、他施設の取り組みを知る機会となった。



第２部　小学校教諭とアンケート結果をについて考える

小学校教諭Ｈ氏とＭ氏を迎えて行う。小学校教諭の考え・参加した保育士の思い・保護者アンケート結果・保育士アンケート結果を比較しながら、それぞれの思い・意識を明らかにしていく。
尚、保育士アンケートは記述式、保護者アンケートは選択肢より選ぶ回答の違いがある。

Q1 就学にあたり不安なことは？

	保育士アンケート結果	保護者アンケート結果
友人関係	1位	1
45 分間椅子に座れる・集中できるか	2	
保育園・幼稚園と小学校との違い	3	5
学習面	4	2
子どもが困った時に対応できるか	4	
生活面・食事・持ち物管理	6	6
教員との関係、個別の丁寧な対応	6	7
登下校		3
放課後の過ごし方		4
保護者同士の人間関係		8

司会：先生が、就学してすぐ保護者が不安に感じていると思うことは？
先生：いろいろな保育園などから来るので、友人関係が一番だと感じる。保護者さんがクラス発表を見て一喜一憂している。知り合いのいない子ども・保護者は不安そう。
司会：授業中、椅子に座っていることはできるのですか？
先生：子どもによってまちまち。座り方などどこまで容認するか。担任が工夫している。
机の引き出しのお道具箱は宝箱で、ひとり遊びをする子もいる。
上靴・靴下に慣れていない子もおり、少しずつ慣れてもらう。
下校時には最近保護者のお迎えの方がたくさん来られており、ひとりで帰らせることが少なくなってきたと感じる。１年生の最初の１週間は下校にとても気をつかう。
参加者：忘れ物の時の対応は？
先生：保護者の助けが必要な体操服や給食袋の時は「お家の人に伝えや」などの声掛けをする。鉛筆など自分で用意しないといけない事は「自分で用意できるようになったら素敵な小学生」など少しずつ話をしていく。怒っても次につながらない。助けてもらった時のうれしさや借りたときのマナーを教える。「だってママが…」と言う時は、保護者にお願いはするが、それは違うという話はする。

Q2 就学に向けて取り組んでいること

	保育士 アンケート結果	保護者アンケート結果 （ある）
排泄・着替え・食事等生活習慣、持ち物管理	1位	1（生活習慣）
平仮名・数字・時計などのワーク	2	2（家庭での学習）
自己表現の場・気持ちを伝える	3	
椅子・机を使用、小学校を意識した活動	4	
集団で話を聞く	5	
礼儀・行儀・挨拶など社会性	6	
人と仲良く関わる事ができる・集団あそび	7	
主体性・チャレンジ精神	8	
自信・自尊感情・自己肯定感を高める	9	
		3（運動系の習い事）
		4（学習系の習い事）
		5（地域を一人で歩く）

司会：就学に向けて取り組んでほしいことは？

先生：トイレ。小学校のトイレはあまりきれいではなく、掃除で水を流します。ズボンなど全部脱いでぬれてしまうことがある。また、洋式が少ないので和式でできるようにしてもらえたら。

服を畳むのに時間がかかる。1年生の初めの体操はほぼそれになる。

入学してすぐは自信を持っているが、字を書く・足し算など上手くできない事・わからない事が出てくるとポッキっと折れてしまい、イライラして手が出てしまったりする。

平仮名や数字は生活の中で時計や数、字に触れ、熱心にされている。1年生になって字を書けるけど書き順が自己流でなかなか直らない。鉛筆の持ち方も小学校では直らない。6月までに平仮名を全部するので持ち方までできないのが現状。「クジャク法」という物語で覚える鉛筆の持ち方もあるので参考にしてほしい。

参加者：字は読める方がいいのか。

先生：読めない前提で教える。しかし読めないのは、障がいか字に出会ってないのかで違う。障がいなら早く対応できるほうがいい。字に出会っていなかった子はすぐ吸収する。

Q3 小学校への引継ぎで重要視している点は？

	保育士アンケート結果
子どもの性格・個性・特徴	1位
家庭環境や保護者について	2
保育士が行っていた関わりかたについて	3
援助が必要な子どもの発達面やアレルギーなど	4
他児との関わりで気になる点	5
園での様子・集団の中での様子	6

司会：保育園との引継ぎで知りたいことは？　　先生：…

司会：保育園は教頭・教務主任の先生にお伝えしたりしているが、

先生：後、保健や支援の先生にも伝わっています。1年生のクラス分けは出身園・地域・家庭環境・就学前検診の様子などを考慮して管理職が決めまる。3月末に担任する学年が発表されるので、担任にはそれからです。教室で、安心して楽しく過ごせる様な配慮を教えてほしい。

Q4 小学校に求めること

	保育士アンケート結果
ひとり一人の関り・配慮を丁寧にしてほしい	1位
保育所との連携（双方の見学、幼児保育への関心）	2
環境の変化・不安を受け止めてほしい	3
特になし	3
子どもたちが安心して楽しく過ごせるように	5
自己肯定感が持てるような関り	6

司会：保育要録はどうしているか

先生：要録は名前を見ても結びつかないので、5月ぐらいになってみることが多い。活用しにくいのが現状。歌はたくさん歌ってくださり、よく知っている。嬉しそうに歌ったり踊ったり自己表現の場になっている。6年生になってもよく覚えている。絵本もすごい勢いで集まってきてくれる。保育士の力を感じる。

Q5 保護者に求めること

	保育士アンケート結果
自分のことは自分でする	1位
子どもとの時間を取る （話す・遊ぶ・翌日準備）	2
生活リズム・習慣を身につける	3
子どもの様子・変化に気づく	4
特になし	5
子どもの成長に寄り添う	6
学校・保育園との連携	7

司会：小学校の保護者の様子は？

先生：お母さんが手をだしてやってしまうことが多い。ケンカもお任せしてくれず、お母さんが解決しようとして、分かった時は大変な状態になっていることがある。子どもはごめんね、いいよができるが、保護者はむずかしい。母親が入学を機に仕事を始めたり、時短ではなくなることもあり、子どもも大人も環境が変わり大人のケアをしなければならないことがある。会う機会が少なく、保護者との意思疎通がむずかしいこともある。

参加者：給食時嫌いな物への対応は？

先生：先生によってちがう。私は、減らすが 1 口は食べようと言っている。減らした子はおかわりできない。保護者にも懇談で 1 年生の体を考えて作られている給食なのでと伝えている。

参加者アンケートより

・現場の先生・学校の話、小学校での子ども・保護者の様子を知ることができた。
・就学に向けての保育・援助の仕方、保護者との対応を知ることができた
・保育士の思いと保護者の思いのずれがあることがわかった。

まとめ

4・5 歳児の担任保育士は小学校教諭の話を聞く機会がほとんどない。小学校について、知りたかったことを知ることができる機会となったようだ。保育士・学童指導員・小学校教諭が集まって話す中で、それぞれの立場での思いを伝え合い、知ることでお互いを尊重する一歩になった。

今後、保護者の接続期の不安にどのように寄り添うことができるのかをアンケート結果をもとに深め、保育に還元していきたい。また、昨年度アンケートに協力してくださった保護者がお子さんの就学後に不安が解消されたのかなど、学童職員としてできることを探り、取り組んでいきたい。

2017年度情報交換について

文責：望之門学童クラブ
大西　奈々子

数年前より継続して“研究会の時間内に”情報交換を実施してきました。意図として“他施設の取り組みを知る”事が挙げられますが、近年は各施設の研究会参加スタッフの入れ替わりも多く、毎年新しいスタッフが緊張した中で参加しています。「“新人だから”ではなく“施設の代表”として」初めて顔を合わせる他施設の学童指導員の中、今までの地域の子ども研究会の継承もあまりわからないまま、更に（おそらく）施設でも学童担当としては経験も浅い中で、今まで長年経験されてきたスタッフと対等に討議できるスタッフはそう多くありません。そういった近年の課題をどう解消していくか…と考えた際に毎回行う情報交換の時間を上手く活用する事にしました。

【テーマ一例】

- 1年生と高学年の活動について
- 地域における社会資源
- 雨の日の過ごし方
- 将棋のルールについて
- サマーキャンプの取り組み
- 学童の防災（避難訓練や備蓄・備品など）
- 室内遊びについて
- 夏休みの活動
- 手作り給食・おやつについて
- 指導員の経験年数と子ども達の様子の違いについて
- 通所のルールについて

テーマ一例を見て頂いて分かるように、子ども達と過ごす中での小さな悩みが多く研究会の休憩時間や帰り道に雑談として話すような内容のものが多いと思います。しかし“雑談”は、スタッフ同士の関係が築けた上で出来るものだと思います。

子ども達への合同行事年間テーマに『出会い・知り・繋がろう』と掲げました。それは地域の子ども研究会スタッフにも言える事で、子どもたちの放課後を担う施設職員として同じような悩みを持ち、それを共有できる場・悩みを相談できる場・他スタッフの悩みを知り、その人（施設・子ども達）と繋がる場として研究会の時間の中で情報交換として実施しました。

研究会で話し共有することで、同じような悩みを持った人がいる事に安堵し共に取り組もうと活力がうまれたり、施設の垣根を越えて話す中で新たな視点が見いだせたりとそれぞれに収穫がある時間となっていたと思います。

スタッフ持ち回りでテーマ発題を行った事で、自身の思いを他者に伝える難しさや準備の労力など感じる良い機会となったのではと思います。今後は各施設の情報共有に留まらず、そこから自身の考えや悩みの探求・ケース検討などに発展させ、より収穫の多い時間の使い方をしていけたらと思います。

第３２回ともだちドッジボール大会

四貫島友隣館子どもの家
荻野　遙馬

【日　　程】2017年5月28日（日）９：３０～１５：３０

【場　　所】長居小学校グラウンド

【参加施設】愛染橋児童館学童クラブ・阿さひ保育園つくし会・育徳園子どもの家・
今池こどもの家・今川学園子どもの家・四貫島友隣館子どもの家・
長居子どもの家・望之門学童クラブ・平和の子子どもの家・
やまと保育園子どもの家　　計１０施設

【参加人数】小学生２６８名　中高生ボランティア１５名

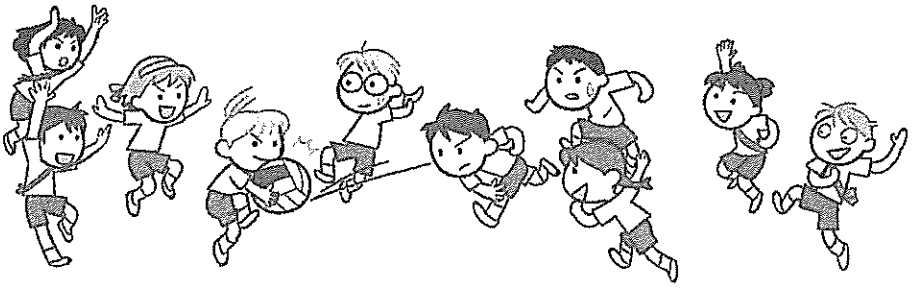
【成　　績】

１年生	優勝	育徳園②チーム	準優勝	平和の子チーム
２年生	優勝	うチーム（育徳園・阿さひ）	準優勝	あチーム（長居・四貫島）
３・４年生	優勝	Ｅチーム（育徳園・望之門）	準優勝	Ｄチーム（育徳園・望之門）
５・６年生	優勝	Ｃチーム（育徳園・阿さひ）	準優勝	Ｇチーム（育徳園・望之門）

今年度のドッジボール大会も昨年に引き続き「交流」をねらいとし、2～6年生は施設間の子ども同士のつながりを持てるように複数施設の合同チームを作り戦ってもらいました。

試合後には「楽しかった」「ほかの学童の子としゃべった」といった声も多く聞き、他の行事の時に「ドッジの時にいた子だ」といった反応もあり、他施設を知る良い機会になったと実感しました。

参加施設・参加人数が減り時間に余裕ができた反面、試合数が学年でばらつきがあり待機時間が長かったり、お楽しみドッジの時間がうまく取れなかったなどの反省点や体育館の使い方などの改善点が多くありましたが、継続していくことでさらに良い行事になっていくと思います。



ともだちフェスティバル　２０１７

やまと保育園子どもの家
山口　理沙

≪日時≫　　１１月２６日（日）　　１０時００分～１３時００分
≪会場≫　　長居公園芝生広場
≪参加施設≫　１０施設　小学生 194 名　中高生１０名
愛染橋児童館学童クラブ、阿さひ保育園つくし会、育徳園子どもの家、今池こどもの家、今川学園子ども家、四貫島友隣館子どもの家、長居子どもの家、望之門学童クラブ、平和の子子どもの家、やまと保育園子どもの家

ともだちフェスティバルを行うようになり３年が経過しました。初めて行った時を思うと、子ども達も流れや全体像を掴んでいる姿を見ると、ともだちフェスティバルが少しずつ定着してきたように感じます。

今年も子ども達が考えた様々なお店が並びました。遊び系、運動系、制作系の３つに分けて出店しました。中には施設合同でお店を出す施設もあり、施設間の距離が縮まっている事を感じました。フェスティバルの途中には様々なイベントを盛り込み、子ども達が楽しめるよう、又より深く交流できるように考えました。イベントの中では施設対抗でのおおなわ対決も行いました。やはり施設対抗は盛り上がり、大人も子どもも熱くなり応援していました。しかし交流をメインとしていたのに、施設対抗はどうなのか・・・という不安もありましたが、「あそこの施設強かったな」とお互いを認め合う姿が見られました。これもひとつの交流の形だったのだなーと子ども達の声を聞いて感じました。

今年度の会場は長居公園を利用して開催しました。地域の公園を利用する事でより多くの地域の方が参加できるようにと考えました。大きな公園という事もあり、フェスティバル終了後も各施設が公園で遊び、より繋がりを深める事が出来ました。

今年も様々な成果と反省がありましたが、地域に生きる子ども達にとって何が大切か、豊かな成長に繋がる物は何かを考え、試行錯誤しながら来年も進めていければいいと思います。

リバートレッキング

文責：今川学園子どもの家
浅井　あすか

日　　時：平成２９年9月１０日（日）
場　　所：東吉野山の家
参加人数：小学生４９名　大人１４名
参加施設：育徳園子どもの家、阿さひ保育園つくし会、望之門学童クラブ
今池こどもの家、愛染橋児童館学童クラブ
やまと保育園子どもの家、今川学園子どもの家（７施設）

今年度は、７月９日（日）にリバートレッキングの予定でしたが、雨の為、延期となり、９月１０日（日）に行われました。

日常生活から少し離れ、大自然の中で、子どもたちは、川登りや飛び込み、魚を網で捕まえて一日中、時間を忘れる程、川遊びを楽しんでいました。

少し深くなっている場所もありましたが、自分たちで考え、岩に登ったりしながら工夫し、慎重に川を登っていました。

お弁当を食べた後は、施設を越えて遊ぶ姿も見られ、トンボを捕まえて喜んでいました。

川への飛び込みに、自信のない子がいたのですが、他施設のOBの飛び込む姿を手本にして、指導員の見守り、声掛けを支えに飛び込みに挑戦！一度出来ると自信がついた様で、何度もチャレンジしていました。

私は初めてリバートレッキングに参加しこの様な行事を通しての、人との出会い、繋がりを子どもたちが経験する必要性を感じました。私自信も指導員としての役割を考える機会になりました。

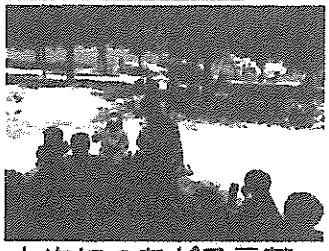
『合同遠足・取り組み』

今池こどもの家　　多賀井潤一郎

かつては、地域の子ども研究会として一年間を通じて様々な全施設合同行事を実施していました。昨年度、大地協の変革で新たな節目を迎え、全施設合同行事としては年間２度のみの開催となりました。新たなチャレンジが始まり２年目を迎え、私たち指導員にとっても「（目の前の子どもたちを）見て、（つながる仕掛けを）考える」という機会を与えられました。そこで、施設間交流の中でも顔のつながりがもてるような活動をしようと企画したのが、この合同遠足・合同行事です。１０施設以上が集結するドッジボール大会やともだちフェスティバルといった行事では味わうことのできない経験を子どもたちに提供できるようにと、２～３施設の規模で子どもたちが集まり、他施設の仲間を身近に感じられる交流を実施しました。

≪合同遠足≫

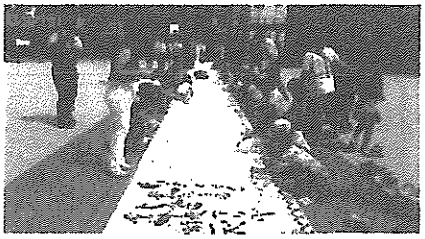
◆実 施 日：6月１０日（土）　◆行 き 先：扇町公園　◆参加人数：約８０名
◆参加施設：愛染橋児童館学童クラブ・やまと保育園子どもの家・長居子どもの家



３施設の合同遠足。最初はお互いに距離をはかりながら関わる子どもの様子があり、よそよそしい感じが見てとれました。しかし、指導員たちの仲立ちで、様々な遊びを展開していくと、お互いに遊びを通して少しずつ距離が縮まりました。お弁当の時間になると施設の垣根を越えて一緒に食べている子たちもいました。お互いに名前を呼び合い、帰る頃には「またね」と次につながる言葉を掛け合っている姿も見られました。今回の遠足を通じて、工夫次第で、まだまだ有意義な交流ができると感じました。各施設での取り組みがある中、調整が困難な現状があるのは否めないですが、子どもたちにとって有益な取り組みであることを実感できました。

≪１００人でチャレンジ！ ～50m の和紙に 100 人でお絵描き～≫

◆実 施 日：6月１７日（土）　◆会　場：今池こどもの家　◆参加人数：１２５名
◆参加施設：今池こどもの家・今川学園・望之門学童クラブ・その他西成区内児童施設



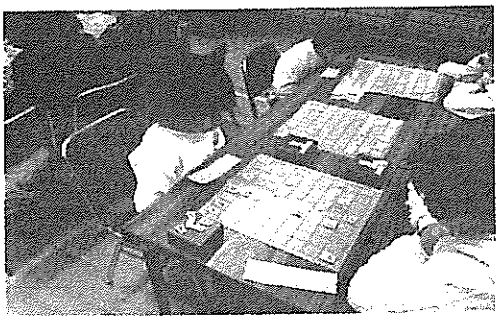
１００名を超す子どもたちが集まるグランドの真ん中に、巨大な和紙のキャンパスが出現しました。間もなく、芸術書道家４名によるデモンストレーションが始まると、騒がしかったグランドの空気がフリーズしました。優雅に動く筆芸を目の当たりにした子どもたちは、「自分もしてみたい」という意欲がかき立てられました。その後、絵画活動にのめり込んでいる子どもたちの姿を見ていると、初めて出逢った子ども同士が、『こっちにも描いていいよ』『ほら手形もできるで』と笑い合っている姿が見られました。活動を共有するだけで、自然と会話を始めて、「一緒にする」という喜びを感じることができていました。

合同遠足を通して他施設と交流を持つことで沢山の「小さなつながり」が達成できました。参加した子どもたちの姿を見ていると、確実な手応えとして「つながる喜び」を実感できていたように思います。初対面で距離感を図りながら指導員の仲立ちに促されて挨拶をしていた子どもが、いつの間にか冗談を言い合う関係にまで発展する光景を目にすることもありました。このように、全施設合同の大きな行事では達成されにくい「気軽に子ども同士がつながり合える」という実践ができ、とても大きな収穫となりました。次年度も楽しみです。

２０１７年度子ども将棋大会

○平成３０年2月１０日（土）　育徳園早川記念ホール
参加施設：愛染橋児童館　今池こどもの家　育徳園子どもの家　長居子どもの家
望之門学童クラブ　平和の子子どもの家
参加人数：100名
内　　容：名人リーグ（上級者）金リーグ（中級者）銀リーグ（初心者）
団体戦（金・銀の選手５名）
金・銀リーグの予選敗者トーナメント＋と金リーグ（練習対局）
指導棋士による６面指し　　将棋ものしりクイズ

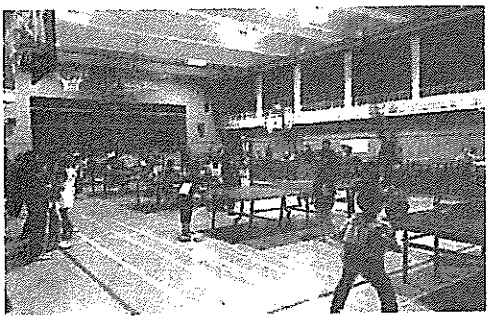
感　　想：「中学生棋士、藤井六段」「羽生永世７冠」「ひふみん」…。空前の将棋ブームの後押しもあって、熱気にあふれた大会となりました。伝統文化の一つである将棋を次の時代に引き継いでいきたいと思います。

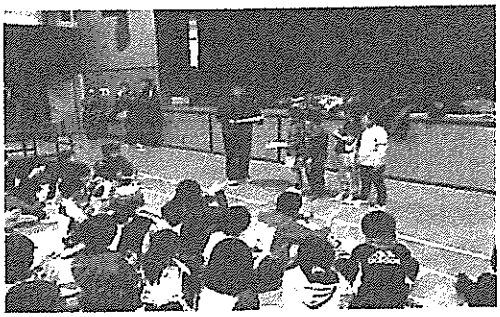


2017年度子ども卓球大会

○平成３０年2月２５日（日）　昭和中学校体育館
参加施設：育徳園子どもの家　愛染橋児童館　長居子どもの家　今池子どもの家
望之門学童クラブ　西淀川児童館　阿さひ保育園つくし会　都島児童館
参加人数：子ども87名　スタッフ・保護者45名
内　　容：（午前）各学年によるリーグ戦
（午後）午前リーグを順位別に再度分けてのリーグ戦

感　　想：卓球界でも今、若い世代の活躍が目立ちます。この大会での経験を糧に未来に羽ばたき、新しい時代を作る子ども達になってほしいと思います。



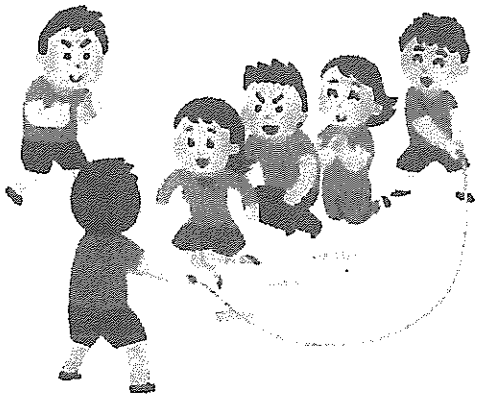


「地域の子どもたちの豊かな成長を目指す」

愛染橋児童館学童クラブ
岡原　武

今年度から、近くの小学校が２つの小学校、１つの中学校と統合されて、小中一貫校になった。学童までの距離が少し遠くなったり、全校生徒が増えたり、先生の入れ替わりが多かったり、中学生と一緒の環境だったり、子どもたちにとっては大きな環境の変化だったと思う。保護者からは学童と学校の距離が遠くなったので、心配だという声が多かった。小さなトラブルなどあったが子どもたちに影響せず、元気に来館する姿が見られた。

学童内では約束・ルールなど枠組みが伝わって来て、子どもたちは落ち着いて来た。しかし、何かモヤモヤしているものが発散されていないで、常に落ち着かない状態でいる子どもが多い。公園で遊んでいると、地域の子どもたちからもそんな印象を受けた。



今年度の研究では、施設の外での子どもの遊びについて学んだ。YouTube を観たり、テレビゲームをしている子どもが多い。公園でもゲームをしている子どもが見られる。

テレビゲームは刺激が強く依存症になる危険性がある一方、子ども同士、親子のコミュニケーションのツールになるという面もある。子どもにとって大切なことは、依存しない力＝主体性が育っているかどうかだと感じた。ゲーム以外に他に面白い遊びが見つけらない。他人にやることを決めてもらわないと動けない。ではなく、自ら楽しいことを作っていく力、友だちとつながられる表現力を身につけられるようにしていきたい。

今年度は地域の子ども研究会の代表でした。会に参加して２年目でわからないことが多く、ご迷惑をかけたと思います。わからないことは相談したり、様々なことを助けられたりしながら、今年度を終えました。本当にありがとうございました。

２０１７年度を振り返って

アフタースクールKIDSかわぐち

根本　栄輝

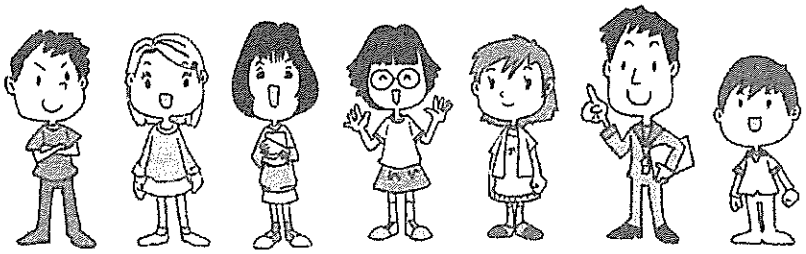
今年度が地域の子ども研究会に参加して２年目の年になりました。

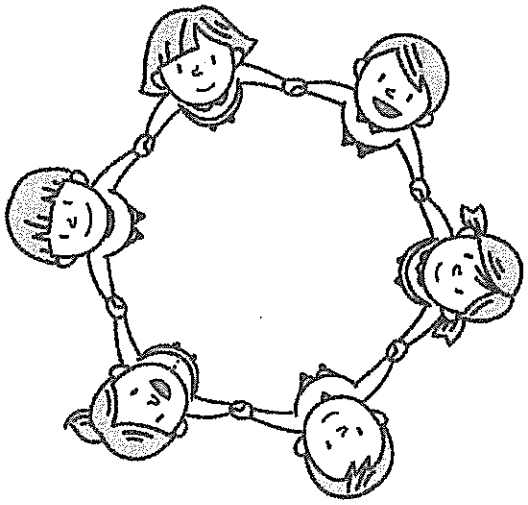
初年度はわからないことが多くベテランの先生方が話し合っている事を聞くことしか出来ませんでした。自分から動き出さないと何も得られない、ということはわかっていたのですが、なかなかその一歩が出ませんでした。しかし、今年度は研究会の始めにサブタイトルを決めました。「踏み出す努力、視点、研究、還元」というものでした。改めて自分から一歩踏み出さないとダメだと言うことを再確認しました。
頭の中にその事をいれ、研究会に参加していくと、今まで見えなかった視点が多く発見できるようになって、１年目とは違い、とても充実した１年にすることが出来ました。
研究会の中でも、少しずつではありますが、自分の思いも発信できているのではないかなと思います。

友だちフェスティバルでは、１つのイベントをやらせていただき、周りの先生方の協力もあり、問題なく終えることが出来ました。初めての大地協の行事参加だったので、不安もありましたが、地域の子ども研究会の先生方がいてくださったので、当日は不安もなく自分の持ち味を出して、イベントに取り組めたと思います。

自施設では、２年目の勤務となり、子どもたちとの信頼関係も築くことができ、笑顔の耐えない１年間にすることが出来ました。研究会で学んだことを施設に持ち帰り、実践し、子どもたちに還元していけた結果が、このみんなの笑顔だったのじゃないかなと思います。

これからも研究会の中でたくさんのことを学び、自施設の子どもたち、地域の子どもたちに還元していけるようにしていきたいと思います。





1年を振り返って

今川学園子どもの家
浅井　あすか

「地域の子ども研究会」の一年間を振り返ると、遊びチームでの研究が一番深く心に残りました。研究会で各施設の“子どもの遊びの現状”について話し合いましたが、その中で何をして遊べば良いのか解からず「暇やー！」と言っている子がいること、その子たちは家でも、ゲームや携帯電話のユーチューブばかり見ている子が多いという現状であることが分かりました。そんな子どもが、施設内にいて気になる！！という意見がでました。私自身も自施設ではどうだろうと気になり、子どもたちに聞いてみましたが、やはり家では、“ゲームをして遊んでいる”という回答がほとんどでした。子どもの遊び場の減少、習い事なども増え、子ども同士の繋がり合えるコミュニケーションの場が減っているという現状が見えてきました。

そこで、児童部会でもこのテーマを取り上げ、色んな立場の方々に現状を聞かせて頂き意見交換を行いました。

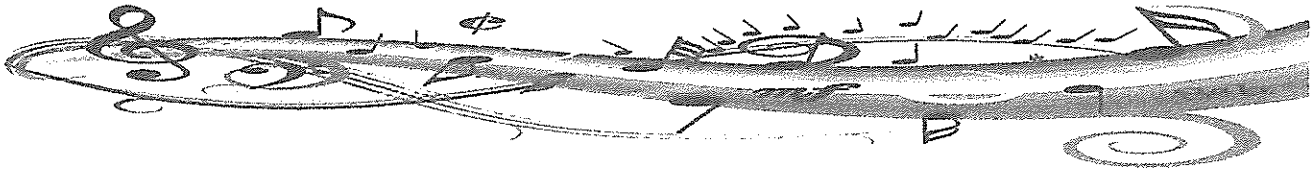
ゲーム機のメリット、デメリットが討論され、

メリット…の意見の中には、コミュニケーションツールになっている、危険でない、一人でも楽しめる、留守番が出来るツール、少しの合間に取り出して出来る。
デメリット…の意見では、視力の低下、実体験が乏しくなる、刺激が強い、長時間やり続けてしまう、運動不足になる。

等々の意見が出ました。

また、保護者の悩みの中には、オンラインゲーム上で、別人格になりすまし、言葉遣いも荒く、ケンカをふっかける様な言葉を使ってやりとりしていて困っているというような話も出てきました。

今回の研究活動、児童部会での学びの中で、インターネットを使えばコミュニケーションをとる事は簡単に出来るかもしれないが、実体験が乏しくなる。実体験だと、時間や相手の気持ちを組み込む事が必要になり難しい事なのかもしれませんが、子どもたちの未来に目を向けて考えると、たくさんの経験（失敗の経験も含め）を実体験の中で味わって欲しいと思いました。この研修を通して子どもたちの自尊心、主体性を育んでいけるように、これからも子どもたちと一緒に学び、歩んでいける指導員を目指し、日々向き合って楽しく遊べる環境作りを心掛け実践していきたいと思いました。



１年間を振り返って

都島児童館　米谷 柾哉

地域の子ども研究会に今年度から初めて参加させていただき、自身の務める都島児童館だけでは知りえない大阪の学童保育の様々な実態や、ベテランの先生方の子どもたちに対する情熱のこもった考え方や豊富な知識を研究活動などを通して学ぶことができました。今年度は研究活動において子どもたちのあそびについての研究があり、その中でテレビゲームだけでなくＩＣ機器と子どもたちの関わりというところにも触れることができました。児施設では子どもたちによるＩＣ機器の利用もあるので、児施設以外ではそういったＩＣ機器への関わらせ方についてどんな考えをお持ちなのかといったことも知ることができ、自施設での子どもたちとＩＣ機器の関わりについて考えを深めるきっかけにもなったと思います。

また今年度は、都島児童館はほとんど行事やイベントに参加することができず、大地協バザーでの大人同士のつながりが主なつながりとなりましたが、自身にとっては経験年数の浅い中で大地協バザーの運営に深くかかわることができ、多くの人間が集まって一つのものを作り上げる際に発生するエネルギーを直に感じることができ、とても良い経験になったと感じています。

地域の子ども研究会に参加して、色々な地域、施設や環境による子どもたちの生活。色々な年代や考え方を持つ先生方の子どもたちとの関わり方を知ることができました。環境や子どもたちの実態に合わせて私たち放課後児童支援員は、子どもたちの最善の利益を求め、見栄えにこだわらず子どもたちの主体性を損なわない活動に取り組んでいくこと。そのために色眼鏡に囚われない柔軟な発想で、子どもたちへの取り組みが本当にその子のためになっているのかを常に考えながら、これから出会う子どもたちに還元していかないといけないと感じました。経験年数の少ない私にとっては、研究会に参加して様々な知識や考え方を学べたことは、こだわりを持ちすぎないように考えていきたいことにつながり、それによって自身の発想をより広げることにもつながったと感じています。

地域の子ども研究会に参加されていた先生方、今年度はたくさんの学びをありがとうございました。この学びを糧にして、子どもたちとより良い関わりをしていければと思います。

ー地域の子ども研究会での活動を振り返ってー

長居子どもの家　　米田

今年度初めて地域の子ども研究会に参加させていただきました。これまでは自施設内の活動や行事に取り組んでいましたが、今年度は他施設の先生方や子ども達との関わりを持つ機会が増え、一つひとつが学びとなりました。

地域の子ども研究会内において、複数の施設の指導員が集まり各施設の情報を共有しお話を聞くことが大変勉強になり、自施設内での活動の参考になることも多々ありました。また私自身、学童指導員になったのも初めてだったので分からない事ばかりでしたが、自分の知りたい事や聞いてみたいと思う事も情報交換の中でも知る事ができたので、研究会は貴重な時間でした。

ドッジボール大会や合同遠足、ともだちフェスティバルなどの行事について、交流という面ではあまり多くは持てていないように感じました。ドッジボール大会でも、チームが他施設と合同の子ども達は徐々に会話も増え仲良くする様子も見られましたが、それ以外の子が他の施設のチームに声を掛けにいくのは少し難しいのかと感じました。話したいと思ってはいるけれど躊躇する子もいました。一つの行事から次の行事までに交流をつないでいけるものがあればいいのか、施設関係なく子ども達が楽しめる行事に今後もなっていけばと思いました。

今年度、児童部会にも初めて参加させていただき、これまでにない経験もさせていただきました。全体会のパネリストをさせていただくにあたって、自分の事を再度見つめなおしたり、これからの課題を見つけていくきっかけになりました。また、普段お話を聞く機会のない方から色々なお話をお伺いする事ができ、大変勉強になりました。

自施設内だけでは知る事のできなかった学びがこの一年の間にたくさんあり、この学びを次年度につなげていけるよう、より学んでいきたいと思います。また、子ども達の為に自分自身何が出来るかもっと考えていきたいと思いました。今年一年間ありがとうございました。

「町を歩こう」から現在

平和の子子どもの家　谷川勝敏

平成 11 年の大地協 40 周年記念誌「町を歩こう」を時々、読み返してみる。すると 15 年以上前の地域の子ども研究会での活動や自分自身の姿がよみがえってくる。

「我々は常に遊びのプロであれ」「テレビゲームに負けるな」ということを合言葉に日々各施設で活動しています…。そんな記述に当時の熱い気持ちが思い出された。けん玉ブームを起こそうと指導員仲間が夜な夜な集まって腕を磨いた頃が懐かしい。その後は阿さひの増岡君が「けん玉ランキング」という活動に力を注いでくれたこともあって、各施設でのけん玉熱が高まっていったことも嬉しい思い出だ。色々な技の連続記録や順位、段級と施設名そして個人名が掲載されていたので、子ども達は会った事が無いライバル達と思いを共有していた。また、すごい記録に刺激を受けていた。研究会の行事に「けん玉大会」が新たに増えたのも自然な流れだった。

今年度、地域の子ども研究会に復帰する形で参加することになった私。時は流れて、当然、最古参である。昔を懐かしむ思いはあったが、現在の活動から学ばせてもらおう、という気持ちで毎回参加させていただいた。行事の運営はスリム化されているように見えて、実は陰で沢山の時間を費やしてくれているメンバーの姿を知っている。研究会の開催数こそ減ったものの、個々の役割や労力は相当なものだと思う。一年間お疲れ様でした。

さて、私が楽しかった事は、遊びの研究班での活動だ。ゲーム機を一切使わないで生きてきた（大げさかな？）自分にとって、現代社会のゲーム機は個人的には関心が向かないものだ。しかし、関心を向ける必要があるものなのだ。長居の川畑君は世代の違いもあるが「ゲームが大好き～ゲームの話題で子ども達と盛り上がってます」と話してくれたが、おじさんの私はストレートパンチを顔面にくらった気分だった。「将棋は 400 年間、そのルールを全く変えないで現在も楽しまれている、それはなんでかな？」などとパンチを返したものの、どうやら古い人間は私一人だということに気づかされた。

児童部会に向けて討議を繰り返したが、これは幸せな時間だった。興味があることについての学びは苦痛にならない。個々の考え方の違いも心地よい刺激だ。仲間と、とことん討議できるのが地域の子ども研究会の良さだと思うし、今後も変わらないでほしい。

多様な社会状況を背景に、学童期の子どもの遊びは変化してきている。「我々は常に遊びのプロであれ」という思いを今こそ大切にしたいと思う。

一年間を振り返って

文責　長居子どもの家　川畑　亮輔

今年も地域の子ども研究会では年間を通して様々な行事や研究をしてきました。
行事では年間を通して施設間での交流を目標に行ってきました。「出会い・知り・繋がろう」というテーマの元行ってきた行事。子ども達からは様々な反応が返ってきました。

合同チームで行ったドッジボール大会ではたくさんの施設の子ども達と出会った子ども達。最初は緊張していたものの、いつの間にか打ち解け楽しそうに笑い合う姿は今日出会ったとは思えない子もいていました。合同チームになってからは「大丈夫かな・・」「ちゃんとチームとして成立するのかな・・」という不安もありましたが、そんな大人の不安を吹っ飛ばしてくれる子ども達の力にはいつも驚かされています。
しかし中にはもっと自分たちの施設内で団結して今出せる力を発揮したい！という声もありました。そんな子ども達の力を出せる場も作って行かないといけないと感じます。
その後行われた合同遠足では名前を呼び合い一緒に遊び、ご飯を食べる姿を見ると、ドッジボール大会の交流が活きている事を強く感じました。

秋にはともだちフェスティバルを行い他の施設の子ども達とより繋がりを深められるように作ってきた行事。繋がり会えるような様々なイベントを考え実施しました。ドッジボール大会で上がった子ども達の声も逃さないように、施設対抗や個人対抗のイベントも行いました。やはり施設対抗は子どもも大人も燃える事は確かでした。目標に向かい努力する子ども達の力はすごかったです。
しかし交流してきたのに施設対抗を入れてしまうと、また子ども達の中に他の施設に敵対心を抱く子も出てくるのでは・・・と不安な面もありましたが、子ども達の反応は「やっぱあそこは強いな・・・」「いっぱい練習してんのかな？すごいな。」とお互いを認め合う姿がありました。その言葉を聞いてこれもひとつの交流の形なのか。と思いました。

交流を目標に子ども達と活動してきた一年間。成果もありましたが、たくさんの課題も見つかりました。子どもの力を疑っていたわけではありませんが、いつも私の想像を超える子ども達の力には本当に驚かされます。そんな子ども達の力が子ども達自身でもっともっと伸ばせるような場所を作って行きたいと思います。
子ども達にとっての交流の在り方や、研究会のテーマでもある「豊かな成長」に向かいまだまだ試行錯誤しなければいけませんが、ひとりひとりの子どもと向き合い、来年度へ繋げていきたいと思います。

2017年度　振り返り

阿さひ保育園つくし会
吉野　裕志

人によって価値観は違う。育ってきた環境や関わってきた人によって変わっていく。そのためなのか、子どもと衝突したり親からクレームがきたりして苦しくなる。施設の上の先生とも価値観が違っていたら手に負えない。それに対して真っ向からやりあうか、とりあえずいう事を聞くかも人によって違う。研究会内でも１人１人事情が違う。よくよく考えれば不思議な時間だ。いい大人が様々な事情を抱えて来ているのだから足並みもそろわないのは当然なのかもしれない。ただ、向いている方向は同じでなくてはならない。それも難しいんですけどね。

他人を認めるのが得意な人もいれば、不得意な人もいる。自由に遊べよと言って全部を受け止める事が出来る人もいれば、全部を型にはめないと気がすまない人もいる。そもそも自由っていうのが曖昧でよく分からない。好き勝手と自由はどう違うのでしょう？それも捉える側によって変わるのでしょう。

言った言葉が全然違う意味でとられてりするのも正直しんどい。言われた言葉の意味を考えなくてはならないのも正直しんどい。でも残念ながら人は他人の気持ちを分かる事が出来ないからすれ違いもあれば、衝突もある。

結局今年はそういう価値観の違いや言葉のとらえ方の違いに振り回されたような１年間だった。どう言おうが分からないやつは分からないし、伝わらないものは伝わらないという結論にしかならなかった。ただ、だからといってそれで諦めるわけにはいかないので、届かない言葉を伝わらない気持ちを言い続けてくしかないのだろう。同じ方向を向いているか分からないけれど、きっといつかは交わる時がくるかもしれないので進んでいくしかない。時間や付き合いの長さが解決につながってくかもしれないので、同じ場所に長くとどまる事も必要な事なのかもしれない。いますぐに解決しないのならば長い目で見てのんびりすすんでいこうと思う。それが問題の先送りに見えたとしても、そうするしかないから仕方ない。
なんて諦めきれたらどれだけ楽か。今ある問題がそのうち解決するからといって今なにもしない言い訳にはならない。解決できることは一つ一つ解決させていくしかない。それでも・・・

という気持ちがずっと頭でめぐっています。他人の違いを認めたいけれど、それでもはっきりしたい。言葉だけで、言葉を使わなくても、他人の気持ちや思いが伝わればどれだけいいか、と思うような１年でした。

２０１７年度の振り返り

四貫島友隣館子どもの家
荻野　遙馬

研究会に参加して２年目。昨年にも増してさらにたくさんのことを経験させて頂きました。

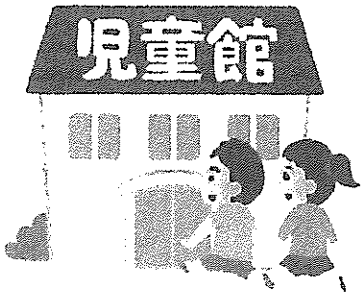
５月に開催したドッジボール大会では実行委員長となり運営に携わりました。昨年の右も左も分からないまま会議に参加していた状況のままではいけないとは思いつつも、あまり進歩しないままドッジボールの話し合いを進め、研究会のみなさんにとても迷惑をかけてしまい、たくさんフォローしていただく形となってしまいました。当日は見直す部分もありながら、子どもたちから「楽しかった」という声も多く聞かれ子どもたちにとっても有意義な大会になったと思います。

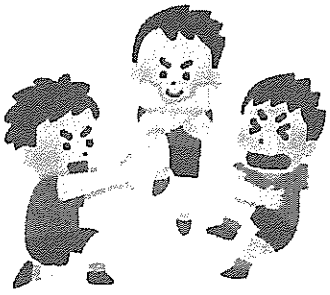
児童部会ではそれまで研究活動で取り扱ってきた「ゲームと育ち」をテーマに多くの地域・施設の方たちの意見を聞くことができ、自分の頭では到底出てこない考え方や対応方法を知ることができ良い学びの場となりました。

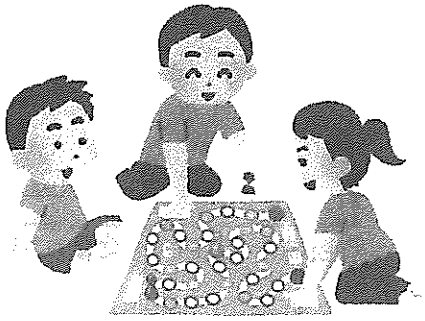
ともだちフェスティバルでは愛染橋児童館の皆さんと合同でのブースを行いましたが打ち合わせの時間をあまり持てず、運営しやすさ重視でのスケジュールになってしまい、目立った活動はできずに終わってしまいました。しかしドッジボール大会で同じチームになった子を認知していたり、ブースに来た子と会話が弾んでいたりと、少しずつではありますが交流ができ始めていることが実感できた場面もありました。また、フェスティバル後には今池子どもの家の皆さんと公園での鬼ごっこなどで遊び、交流することができました。合同遠足に参加できなかったため、子どもたちにとっても新鮮な体験になったようで、今でも集合写真を見ては思い出話が始まることがあります。

「出会い、知り、交流する」を年間のテーマとして行事を行ってきましたが、ドッジボール、フェスティバルを通じて「出会って知る」ことまではできたと感じましたが交流には至りませんでした。「あの子知ってる」という言葉を聞いた後で、自分が背中を押して会話の糸口を作ってあげていれば交流が始まったのだろうか、と思うこともありました。

昨年度よりも濃い経験をした分、たくさんの反省点が生まれました。来年度研究会に参加させていただけるなら、そこを活かし、子どもたちに還元してあげられるようにならなければと思いました。







『 地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す
～踏み出す努力・視点・研究・還元～ 』

今池こどもの家　　多賀井 潤一郎

先日、地域イベントに参加する機会があり、あるスタッフが案内する声掛けで、それまで元気一杯だった子どもが急に肩を落とし、プログラム参加に意欲を無くしている光景を目にする場面がありました。

それは何気ないスタッフの呼び掛けでした。イベントを運営しているのは地域の子育て支援担当者や保育所職員などで構成されている団体の企画であり、子どもの目線に合わせて中腰になって個別対応をしていたり、子どもにも分かりやすい口調で言葉を選びながらルールを説明する等、様々な場面で配慮が行き届いており、いずれのスタッフも子どもに関わるためのスキルは高く感じられていました。

しかし、あるプログラムの中で司会進行役の方がマイクで指示案内を出す中で、「お子さまの隣りにお母さんも並んであげてください。」と連呼する場面がありました。

待機場所から勢いよく走って先頭に並んでいたのは5歳くらいの男の子でしたが、司会者の話を聴いているうちに落胆したような表情を浮かべました。走る子どもを追いかけるように隣りに来て手をつなごうとしたのは年配の男性でした。男性は男の子の顔を覗き込むように腰をかがめ『お母さんはお仕事やから、じぃじで我慢してや～。』と、少し周囲を気にしながら苦笑いで伝えていました。男の子や男性はどんな心境だったのでしょう。

私たちは、地域福祉施設職員として多様な家庭と向き合う中で、一人ひとりが意識しながら様々な場面できめ細やかな配慮を意識して言葉を発していると思います。目の前の一人ひとりの家庭状況をどれだけ想像力豊かに感じ取り、心配りしながら対象者に掛ける言葉を選べているでしょうか？「人権を大切にしましょう！」と標語を掲げることは容易ですが、想像力が乏しかったり意識が薄かったりすることで、その集団の中のだった一人を傷付けてしまうことも考えられます。その場の大多数の人に喜んでもらったり楽しんでもらうことは大切なことです。でも、見落とされた人が居たとしたら、また「ここに居てもいいんだ」と思えない人が居たとしたら、それはとても残念なことです。この場合「お母さん」という表現を「保護者の方」や「おうちの方」に置き換えるだけで、男の子の時間は止まらずスムーズにイベントを楽しみ続けていたのだろうと感じました。場面に応じて「おうちの方」や「一緒に来られた大人の方」などに言い換えるだけで、一人ひとりの気持ちに寄り添うというスタート地点に立つことができると思います。私自身、地域の子ども研究会を通じて、大地協に関わる行事進行や他の施設の保護者の方々と話す機会が多くあります。自施設の業務だけでは経験できない場面に遭遇し、学びを深めていく中で、私自身も「地域福祉施設職員としての視点」を振り返り、目の前の子どもや家庭の多様性を認め、感じ取っていけるような人でありたいと思います。また、それを自施設で還元していくことができるように、これからも自分を磨いていきたいと思います。

1年を振り返って

望之門学童クラブ
大西 奈々子

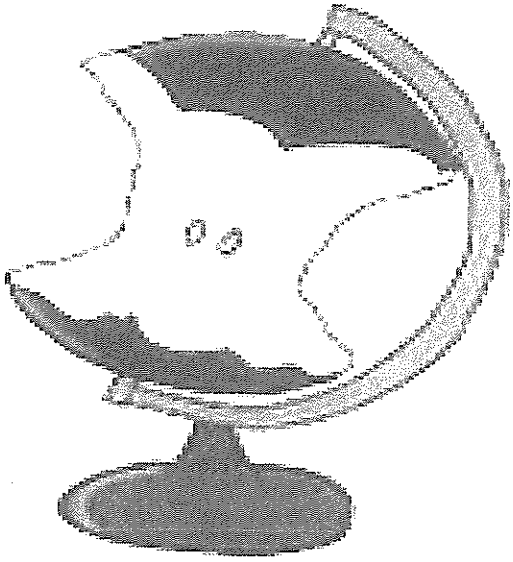
2017度望之門学童クラブでは10名の6年生が卒所を迎えました。この学年の子ども達・保護者さんとは縁があって、乳児の頃にも担任をさせて頂き、また学童時期にも時間を共に出来た事を嬉しく思っています。

1・2年生の頃には人数も20名近くおり、沢山の事象に興味を持ち、楽しそうな笑い声が聞こえると「何々～？」と自ら関わり、視野を広げていました。3・4年生の頃にはとてもよくケンカをし「〇〇嫌やねん」と指導員に言い、陰口ではなく相手と向かい合って衝突を繰り返していました。5・6年生にもなると（低学年児がふざけている様子を見て）「あんな事してる、かわいいなー」と、表現を（今までは否定的に笑っていた所を）肯定的に変え、学童内での雰囲気を柔らかく変えてくれた子ども達です。

他の学年の子ども達との育ちの違いを見てみると“よくケンカをした”という所が挙げられると思います。陰口ではなく、対面しての衝突が子ども達の心に残り、経験となってそれぞれが身に付けた成果かと感じています。誰かが成功すると共に喜び認め、失敗すると励まし時には笑い飛ばし、悲しんでいると傍に居て欲しいのか一人になりたいのかと相手を思いやる事が出来る子に成長したと思います。順風満帆に毎日笑顔で過ごしてこなかったからこそ身に付けた心の成長があり、自信を持って「素敵な6年生でした」と送り出せる子ども達です。

しかし不安を感じる子が数名います。「学童楽しい」と毎日来ていた子達だからこそ、中高生へと成長していく中で新たな居場所や人との関わりの中での悩みをどう解消していくのか。“学童だけが居場所”となっていなかったかを振り返ります。

学童が地域の中での子ども達の居場所の一つとなりたいと思い、子ども達へは学童以外にも場所や人の中に居場所を沢山持ってほしいと思います。それと同時に、子ども達自身が誰かの居場所となり、人との支え合いの中で充実した生活が送れている事を実感してほしいと思います。



気を抜くと“子ども達を支えている”つもりになっている事があります。子ども達に力を発揮させよう・何かさせてあげようと思っている事があります。しかし、子ども達の中に私の居場所があり、常に子ども達の笑顔に支えられています。子ども達は力を持っています。子ども達がその力を自身で考え一歩踏み出し、存分に発揮できるように、そんな場所を提供出来るようにこれからも取り組んでいきたいと思います。

１年間の振り返り

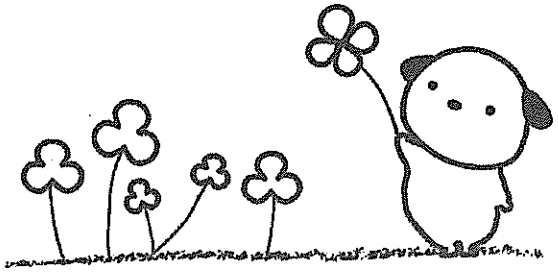
育徳園子どもの家
隈元　まひる

他愛無い子どもたちとのおしゃべりや、いきなり跳びかかるようにおぶさってきたり、膝の上に乗ってくる子たちとの日々の関わりや、子どもたちと対等に張り合って遊ぶ毎日の中で今年度も笑う場面がたくさんあり、この仕事の楽しさを感じる１年であった。

しかし、学童の指導員を続けるなかで、いろいろな課題が見え難しさを感じ、自分の力不足を実感することも増えている。今年度研究活動の一環として１年生の保護者にアンケートを実施した。幼児保育から１年生になっての保護者の悩みが解消したのかを調査したのだが、私たち指導員からみると積極的でちゃきちゃきと何事にも取り組んでいく１年生の保護者の方が回答より不安を抱えていることが見えてきた。この子はしっかりしているから大丈夫という私の思い込みが保護者との関わりを表面的なものにしてしまっていたことを痛感した出来事であった。声掛けを大切に、保護者の小さな悩みを聴き、一緒に考える、少しでも話せる場づくりから改めて心がけていきたい。

また、アンケートを通して研究会メンバーと考える中で、これまでの研究内容を保護者、保育士そして学校に伝えていくことの重要さと難しさを感じている。一度学校教諭と保育士との研修として還元をすることができたが、道半ばで止まってしまっている。今後どのように生かしていくのか課題が残る。

2018年度はドッジボール大会・ともだちフェスティバルなどの行事の変更より３年目を迎える。これまでのことを生かしつつ、さらに子どもたちのためのものとなるように地域の子ども研究会、指導員で取り組めたらと考える。中高生のこと、研究活動など一つひとつのことを話し、考え、深めて少しでも成長していけたらと思う。



2017年度　地域の子ども研究会　参加施設一覧

施設名	郵便番号	住所	電話番号	FAX
愛染橋児童館 子どもの家	556－0006	浪速区日本橋東 2－9－11	6632－5640	6632－5645
阿さひ保育園 つくし会	545－0051	阿倍野区旭町 3－1－6	6631－4718	6631－1607
育徳園 子どもの家	545－0021	阿倍野区阪南町 5－15－28	6621－1901	6629－1979
今池こどもの家	557－0003	西成区花園北 2－16－26	632－7020	6632－7020
今川学園 子どもの家	546－0003	東住吉区今川 3－5－8	6713－0277	6719－4755
四貫島友隣館 子どもの家	545－022	此花区春日出中 1－15－13	6461－3713	6462－1072
長居子どもの家	558－0004	住吉区長居東 4－11－16	6691－3369	6691－8292
望之門 学童クラブ	545－0052	阿倍野区阿倍野筋 5－13－17	6651－8650	6652－8841
平和の子 子どもの家	535－0022	旭区新森 7－1－5	6954－0524	6954－1961
都島児童館 子どもの家	534－0021	都島区都島本通 3－16－10	6921－4385	6921－4385
やまと保育園 子どもの家	559－0014	住之江区北島 3－17－1	6682－1746	6682－1786
アフタースクールKIDS なみよけ	552－0001	港区波除 4－4－18	6583－5230	6583－5231
アフタースクールKIDS かわぐち	550－0021	西区川口 3－1－23	6599－9070	6599－9071

発行

2018年3月31日

特定非営利活動法人

大阪市地域福祉施設協議会